

国語 第2学年 みんなで話をつなげよう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校の国語の授業づくりを手伝う役です。この後に続く「そうだんにのってください（第2学年・話すこと・聞くこと）」の学習指導案を、私の学級に合わせて直してください。

先に、次の五つを一つずつ質問し、私の答えを待ってから次の質問に進んでください。まとめて聞かないでください。

一、学級の人数と、相談会のグループの組み方。

二、既習のこと。第1学年と第2学年でこれまでに学習した話すこと・聞くことの単元と、「たずねる」「感想を言う」がどのくらいできるか。

三、この学級の子どもの実態。話すのが苦手な子、聞くのが苦手な子、自分の考えだけを言い続ける子、などの実態。

四、この単元に使える時間数と、研究授業にする時間（何時間目か）。

五、使える道具。一人一台の端末があるか、録音できる機器があるか、大型画面があるか、紙だけか。

五つの答えがそろったら、学習指導案を次の決まりで直してください。

学習指導要領の文言、評価規準の文末（「～している」「～しようとしている」）は変えない。

教科書の話し合いの例の文は引用しない。必要な所は「先生が教科書から書き入れる」と書く。

相談の話題は学校生活の中で子どもが話せる物に限り、家庭の事情に触れる話題は例に出さない。

時間数は私が答えた数に合わせ、削ったり足したりした時間がどれかを一覧にする。

本時の展開は、人数と道具に合わせて、グループの数、相談する人の順番、使う物を書き直す。

つまりきへの手当ては、私が答えた実態に合わせて具体的に書き直す。

直した所の一覧を最後に付け、どの答えを根拠に直したかを一行ずつ書く。

文章は先生がそのまま使える言い方にし、比喻や決まり文句を使わない。

出力は、学習指導案と同じ見出しの順で全文を出してください。

直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

———ここから直す対象の学習指導案———

第2学年 国語科学習指導案

1 単元名「みんなで話をつなげよう」 教材名「そうだんにのってください」

2 単元の目標

共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解する（(2)ア）。互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて、たずねたり考えを付け足したりしながら話し合える（A(1)オ）。言葉がもつよさを感じるとともに、思いや考えを伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）

〔思考・判断・表現〕①「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつないでいる。（A(1)オ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①進んで、相手の発言を受けて話し、学習の見通しをもって、友達の相談にのって話し合おうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

本単元は、一人が困っていることや考えてほしいことを相談し、聞く人がたずねたり考えを出したりして、少人数で話し合う単元である。学習指導要領第1学年及び第2学年のA(1)オを中心に置く。互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話す力を育てる指導事項である。言語活動はA(2)イ「尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動」に当たる。相談には、相談した人の困りごとを解決するという目的がはっきりあるので、低学年の子どもでも、自分の言いたいことだけを言うのではなく、前の人の話を受けてたずねたり考

えを足したりする必要を感じやすい。「～さんと同じで」「～さんちがって」「まず」「それから」など、共通・相違・順序を表す言葉（(2)ア）を、前の人の話に自分の話を結び付ける言葉として使う場面にもなる。第1学年で学んだ、話を聞いて感想を言う・たずねる学習を受け、第3学年の、司会を立てて目的や進め方を確かめながら話し合う学習（〔第3学年及び第4学年〕A(1)オ）へつながる。

（2）児童について（学級の実態を書く）

（3）指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、つなぐ言葉を「たずねる」「同じ」「ちがう」「付け足す」「順番」の五つに分けてカードにし、黒板と手元の両方で見えるようにする。言葉を知るだけでなく、相談会の中で使って、つながった手応えを感じさせる（(2)ア）。次に、相談会の前に毎回「相談した人の困りごとがよくなる考えを出す」という目的を確かめ、話が困りごとから離れたら相談メモに戻る。そして、考えを言う前に一つはたずねる順を、単元の最初から崩さない。相談会での発言を見て、前の人の発言を受けて、たずねたり考えを付け足したりした発言がある姿を「おおむね満足できる」状況、相談した人の困りごとに立ち返り、前の人の考えと比べたうえで自分の考えを言えた姿を「十分満足できる」状況の目安にする。

5 指導と評価の計画（全8時間）

第1次 第1時：○先生が用意した相談（学校生活の小さな困りごと）に、みんなでたずねたり考えを出したりする。○話がつながった時とつながらなかった時を比べ、単元のめあて「ともだちのそうだんにのって、つなぐ言葉をつかって話そう」をつかむ。評価：態①（観察）

第1次 第2時：○教科書の話し合いの例を聞き、前の人の話に結び付けて話す言葉（たずねる・同じ・ちがう・付け足す・順番）を見付けて「つなぐ言葉カード」を作る。評価：知①（カード・発言）

第2次 第3時：○自分が相談したいことを決め、「こまっていること」「わけ」「どうなったらいいか」を相談メモに書く。

第2次 第4時：○相談する人と聞く人の役を交代しながら、グループで短い相談の練習をする。○聞く人は、まずたずねて、くわしく分かってから考えを言う順を確かめる。

第2次 第5時：○グループで相談会をする（一回目）。相談した人は、出た考えの中からやってみたい考えを選んで言う。○どの言葉で話がつながったかを振り返る。評価：思①（観察）

第2次 第6時（本時）：○相談会をする（二回目）。前の人の発言を受けて、「同じ」「ちがう」「付け足す」の言葉を使い、相談した人の困りごとに合う考えを出し合う。評価：思①（観察・つなぐ言葉カードの記録）

第3次 第7時：○相談会をする（三回目）。まだ相談する人になっていない子が相談する。○話がよくつながったグループの相談会を全体で聞き合う。評価：思①（観察）

第3次 第8時：○相談会を振り返り、話がつながるように使った言葉と、相談にのってもらってよかったことを書く。○学級の話し合いや休み時間にも使える言葉を確認する。評価：知①（振り返り） 態①（振り返り）

6 本時の指導（6／8）

（1）本時の目標

友達の相談を聞いて、前の人の発言を受けてたずねたり考えを付け足したりして、話がつながるように話せる。（A(1)オ）

（2）学習過程

【導入】

学習活動：1 前時の相談会で、話がつながった言葉を振り返る。

○「この前の相談会で、話がつながったのは、どんな言葉を言った時でしたか」

【めあて】ともだちの話を聞いて、話がつながるように、そうだんにのろう。

2 本時に相談する人と順番、相談会の進め方（相談を聞く→たずねる→考えを言う→相談した人が決める）を確認する。

予想される児童の反応：・「どうして」と聞いたら、くわしく分かった。

・「わたしも同じで」と言ったら、話が続いた。

・みんながばらばらに言って、つながらなかった。

指導上の留意点：・前時までに作った「つなぐ言葉カード」を黒板に貼り、手元にも小さいカードを置かせる。

・相談会の進め方を、四枚の絵カードで黒板に示しておく。

・人の困りごとを笑ったり、からかったりしないことを、相談会の前に確かめる。

【展開】

学習活動：3 グループで相談会をする。

- (1) 相談する人が、相談メモを見ながら困っていることを話す。
- 「相談する人の話で、まだよく分からないことはありますか。たずねてみましょう」
- (2) 聞く人が、たずねたり考えを言ったりする。
- 「前の人の考えと、同じですか、ちがいますか。付け足すことはありますか」
- (3) 相談した人が、出た考えの中から、やってみたい考えを選んで、そのわけを言う。

4 話がよくつながったグループの相談会を、全体で聞き合う。

○「どの言葉で、話がつながりましたか」

予想される児童の反応：・それは、いつ困るの。

- ・どうしてそうなるの。
- ・～さんと同じで、～がいいと思う。
- ・～さんと同じで、わたしは～がいいと思う。
- ・～さんの考えに付け足して、～もするといひよ。
- ・まず～して、それから～するといひよ。

- ・「どうして」と聞いたから、くわしく分かった。
- ・「付け足して」と言ってから話すと、つながった。

指導上の留意点：・考えを言う前に、まず一つはたずねる順にする。

- ・自分の考えだけを言い続ける子には、「前の人の考えと同じかな、ちがうかな」と問い返す。
- ・発言できない子には、つなぐ言葉カードを一枚選ばせ、カードの言葉から話し始めさせる。
- ・相談する人が話しにくい時は、相談メモを読み上げてよいことにする。
- ・話が困りごとから離れたら、グループの真ん中に置いた相談メモを指して戻す。
- ・先生はグループを回り、つなぐ言葉が出た所を記録しておき、全体で紹介する。

評価：思① 前の人の発言を受けて、たずねたり考えを付け足したりして話している。(観察・つなぐ言葉カードの記録)

【まとめ】

学習活動：5 本時の学習を振り返る。

○「今日、話がつながるように使った言葉はどれですか。相談にのってもらって、どうでしたか」

【まとめ】ともだちの話を受けて、たずねたり、「同じ」「ちがう」「付け足す」の言葉を使ったりすると、話がつながる。

6 次の相談会で相談する人を確かめる。

- 予想される児童の反応：・「ちがって」を使って、自分の考えを言えた。
- ・たくさん考えを出してもらって、やってみたいことが決まった。

指導上の留意点：・振り返りは、使ったつなぐ言葉に丸を付け、一言書く形にする。

- ・相談した人には、選んだ考えをやってみたら、次の時間に知らせるように伝える。

(3) 板書計画(縦書き・右から左へ)

上段左に日付と単元名、めあて。上段右に相談会の進め方(相談を聞く→たずねる→考えを言う→相談した人が決める)を四枚の絵カードで左から右へ並べる。中段に「つなぐ言葉カード」を種類ごとに並べる(たずねる：いつ・どこで・どうして/同じ：～さんと同じで/ちがう：～さんと同じで/付け足す：～に付け足して/順番：まず・それから)。下段左に、全体で聞き合ったグループの発言を短く書いて、話した順に矢印でつなぐ。下段右にまとめと、振り返りの観点(使った言葉・相談にのってもらって思ったこと)。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

